



事務事業の市民点検2019

中間報告

目次

1 実施概要について	1
2 実施結果について	2
3 中間報告について	3
4 アンケート結果について	4
5 参考：事務事業の市民点検 2019 実施マニュアル（抜粋）	13
6 事務事業一覧	16

2019 年 11 月
市原市

1 実施概要について

(1) 目 的

ア 持続的な改革・改善の仕組みを構築

総合計画に掲げる施策を着実に実施するためには、より効率的で実効性の高い行政経営を進める必要があります。そこで、総合計画を中心としたトータルシステムの中に持続的な改革・改善の仕組みとして、事務事業の市民点検を組み込みます。

イ 対話による改革・改善の推進

(ア) 職員の意識改革から組織文化の変革

点検での気づきから組織内対話を通じて、事務事業の原点に立ち返り、自律的な改革・改善を行えるよう組織文化の変革を促します。

(イ) 市民参画の更なる推進

点検を通じて更なる市民参画を図り、市民本位の行政経営を推進します。

(2) 点検の基本的な考え方

市が行う事務事業は、内容が目的達成の最適な手段となっているか、常に原点に立ち返り不断の見直しを行い、主体的な改革につなげることが必要であることから、市民との対話により点検を行いました。

点検の結果は、成果が目に見えるよう、実行計画、次年度予算、行財政改革アクションプランの見直し等に反映させます。

なお、点検の結果は、拘束力を持つものではありませんが、外部評価及び客観的評価として尊重し、説明責任を果たす必要があることから、点検結果及び反映結果は（反映できない場合は理由も付して）全て公開します。

(3) 全体スケジュール

5 月	・ 実施要領の策定、点検事務事業を選定 ・ 行政改革推進本部、行政改革推進委員会の開催 ・ 対話力向上研修 第 1 弾「組織内対話編」の実施
6 月	・ 市民へ募集案内の発送 ・ 対話力向上研修 第 2 弾「論点整理編」の実施
7 月	・ 市民点検員の決定、市民点検員研修の実施
8 月	・ 市民点検実施（8 月 3 日、4 日）
10～11 月	・ 中間報告の取りまとめ ・ 行政改革推進委員会へ報告 → 公表（ウェブサイト等）
1 月	・ 最終報告の取りまとめ
2～3 月	・ 行政改革推進本部、行政改革推進委員会へ報告 → 公表（ウェブサイト等）

2 実施結果について

(1) 点検結果

実施日	事業数	ちょっと待った！ (廃止・凍結)	もう一歩！ (要改善)	いいね！ (継続)
8月3日(土)	16	0 (0%)	15 (93.8%)	1 (6.2%)
8月4日(日)	16	0 (0%)	12 (75%)	4 (25%)
計	32	0 (0%)	27 (84.4%)	5 (15.6%)

※各事務事業の詳細を記載した事務事業一覧（P16以降参照）には、各判定の内訳、参考としてコーディネーター及び市民提案員の判定を掲載し、併せて、判定に至った経緯を明らかにするため、「判定のポイントとなった理由」をまとめています。

(2) 点検従事者数

項目		1 無作為抽出 点検員		2 OB・OG※2				3 高校生・大学生		計	
				OB・OG点検員		市民提案員※3					
案内状発送		2,500※1		176				・京葉高校、望洋高校、 市原中央高校 ・千葉大学			
応募者（応募率）		73（2.9%）		42（23.9%）		9（5.1%）		15		139	
研修 （参加率=研修/応募者）		57（78.1%）		27（64.3%）		1（11.1%）		15（100%） ※高校生14名は個別説明		100（71.9%）	
市民点検 （参加率=点検/応募者）	上段 8/3	28	58（79.5%）	20	41（97.6%）	4	9（100%）	8 内、大学生1	14（93.3%）	60	122（87.8%）
	下段 8/4	30		21		5		6		62	

■市民点検参加者 内訳

性別	人数	割合
男性	72	59.0%
女性	50	41.0%
合計	122	100.0%

年代	人数	割合
10代	17	13.9%
20代	11	9.0%
30代	7	5.7%
40代	23	18.9%
50代	17	13.9%
60代	22	18.0%
70代	23	18.9%
80代	2	1.7%
合計	122	100.0%

■市民点検 傍聴者数

77	・8/3(土) 43人 ・8/4(日) 34人
----	----------------------------

※1 18歳以上の市民を無作為に抽出して案内状を発送

※2 OB・OG＝過去の点検に参加したことのある市民点検員

※3 市民提案員＝OB・OGの内、事業の点検自体には直接関わりませんが、会場で対話を聞いていただき、提案シートにより御提案をいただくもの。いただいた提案は、市民点検員のものと同様に公表し、担当課へフィードバックする。

3 中間報告について

事務事業の見直しにあたっては、調整等も必要なため、本年 11 月に「中間報告」を、2020（令和 2）年 3 月に「最終報告」を取りまとめ、2 段階に分けて公表します。

(1) 中間報告

中間報告では、「反映の方向性」と「担当職員の得られた気付き」を報告します。

ア 「反映の方向性」

「反映の方向性」は、点検結果が「もう一歩！（要改善）」（27 事業）となった事務事業を対象に、以下の 3 区分から選択しました。

点検結果	反映の方向性			
	即時反映	実行計画・次年度予算	行財政改革 APⅡ	総計
もう一歩！（要改善）	15	7	5	27

(ア) 即時反映する

点検結果を受け、予算には影響しないが、すぐに改善して取り組むもの。

例えば、ニーズ把握のためのアンケート調査を実施することとしたり、事業周知の方法を見直し SNS を活用した広報等を行ったりする場合など。

(イ) 実行計画・次年度予算に反映する

事務事業を見直し、次期実行計画に位置付けるとともに、次年度当初予算に反映させるもの。例えば、次年度から廃止する場合、または、事業費の増額（減額）を伴う場合など。

(ウ) 行財政改革アクションプランⅡに反映する

行財政改革アクションプランⅡに位置付けるもの。例えば、事務事業の主体や実施方法を見直したり、相手側との協議が必要で、複数年かけて反映させていく場合など。

イ 「担当職員の得られた気付き」

主体的な改革改善に繋げていくための契機として、“気付き”を得ることが大切であることから、点検を行った全ての事務事業を対象に、「担当職員の得られた気付き」を取りまとめました。

※詳細は、事務事業一覧（P16 以降参照）のとおり

(2) 最終報告

今後、各担当課では、中間報告の「反映の方向性」、「担当職員の得られた気付き」に基づき、庁内及び庁外調整を経て、具体的な見直し方法等を最終報告としてまとめます。なお、最終報告は、2020（令和 2）年 3 月に公表します。

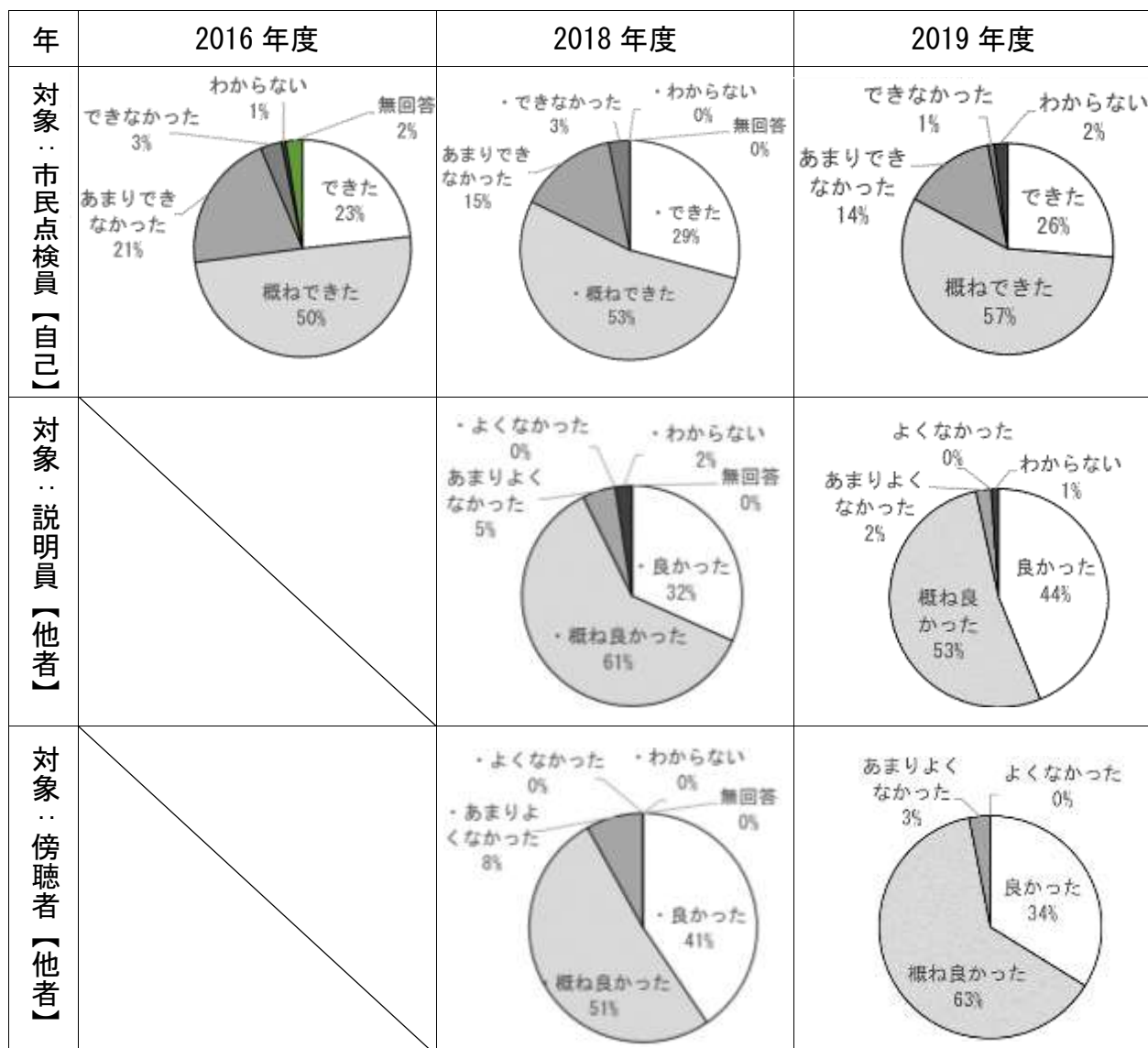
4 アンケート結果について

(1) 市民点検員に関するアンケート

① 市民点検員の質問について

自己評価（上段）・・・思ったとおりの質問ができたか

他者評価（中、下段）・・・質問はどうだったか

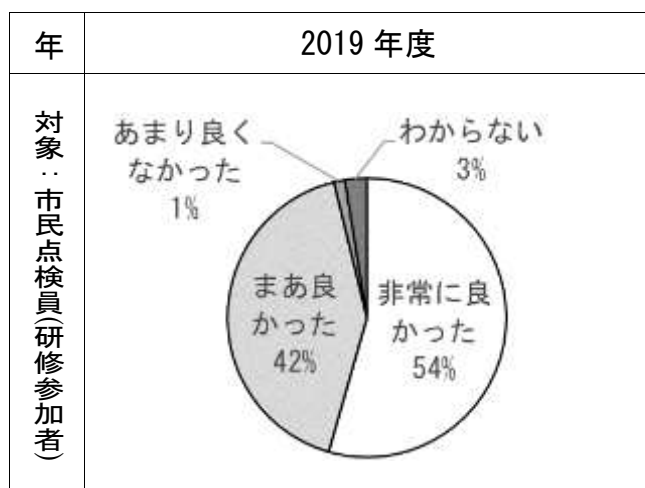


上段の自己評価において、今回の点検（上段右グラフ）では、「できた」「概ねできた」を合わせると 83%となり、前回（上段中グラフ）と同様に高い自己評価となりました。前々回（上段左グラフ）と比較すると、市民点検員から思ったとおりの質問が多く出されました。

他者評価では、説明員（市の担当課職員）からは、「良かった」が 44%（中段右グラフ）であり、前回（中段中グラフ）よりも高い評価となりました。また、傍聴者からは、「良かった」が 34%（下段右グラフ）で、前回（下段中グラフ）よりも 7%下がっているものの、「概ね良かった」を合わせると前回よりも高い評価となりました。

今回、事前に実施した市民点検員研修では、点検当日の対話を活性化させるため、グループ別の質疑の時間を増やすなど、研修内容を充実させて実施しましたが、その一定の効果が伺える結果となりました。

② 事前研修に参加してどうだったか



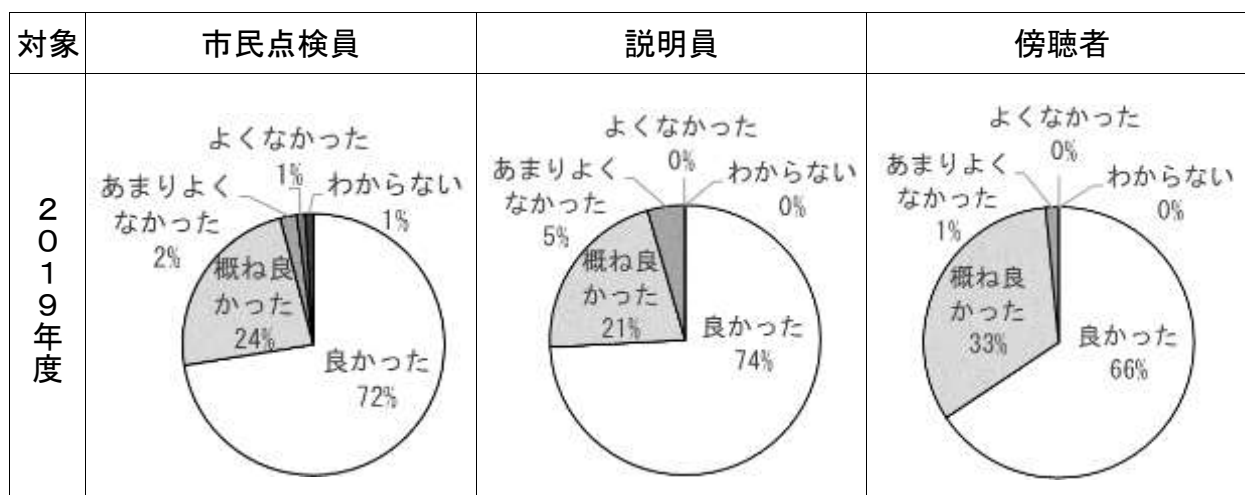
点検前に実施した市民点検員研修について、「非常に良かった(有意義だった)」が54%、「まあ良かった(まあ有意義だった)」が42%であり、非常に高い評価となりました。

参加者からは、「心構えができた。」「当日をイメージできたので、不安が解消した。」「点検方法が理解できた。」といった意見が多くありました。

研修の目的としてきた「市民点検員の不安解消と点検制度の理解」に関しては、おおむね達成できたと言える結果となりました。

(2) コーディネーターに関するアンケート

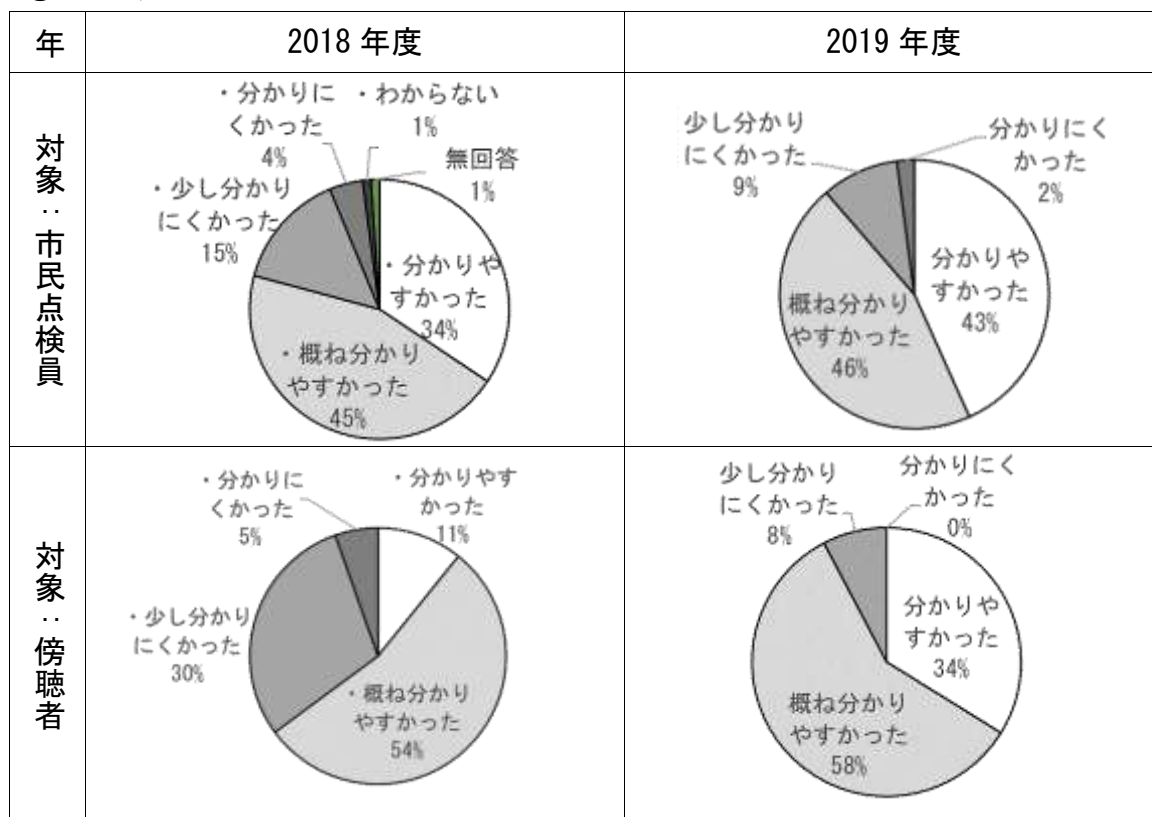
① コーディネーターの進行について



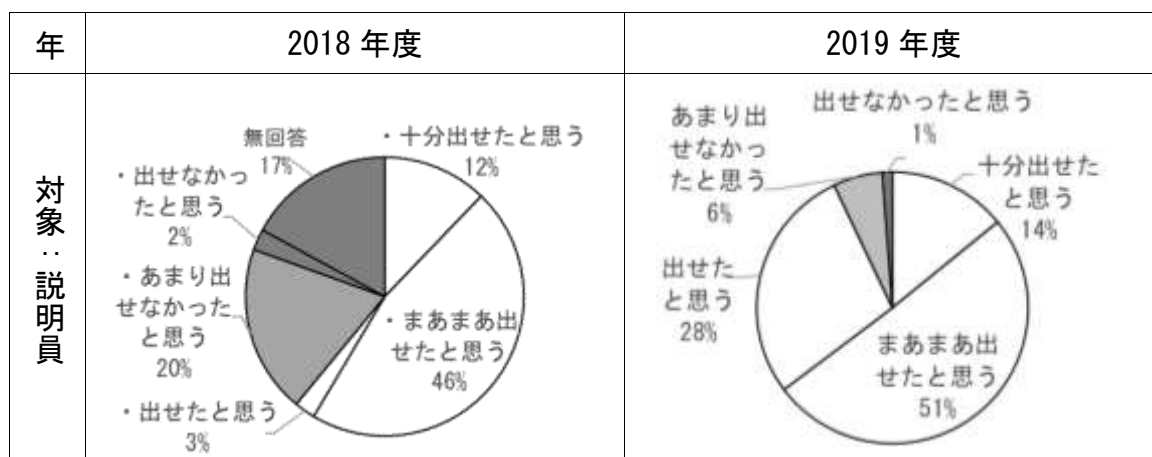
構想日本から派遣されたコーディネーターの進行について、「良かった」と回答した点検員は72%（左グラフ）、説明員は74%（中グラフ）、傍聴者は66%（右グラフ）であり、「概ね良かった」まで含めると全てにおいて95%以上が良い評価をしており、コーディネーター力の高さが分かる結果となりました。

(3) 説明員(市の担当課職員)に関するアンケート

① 説明員の説明力(分かりやすかったか)



② 説明員研修の成果が出せたか



説明員の説明力について、点検員からは「分かりやすかった」が43%（上段右グラフ）で、前回の34%（上段左グラフ）に比べて高い結果となりました。また、傍聴者からも「分かりやすかった」が34%（中段右グラフ）で、前回の11%（中段左グラフ）よりも説明力が向上している結果となりました。

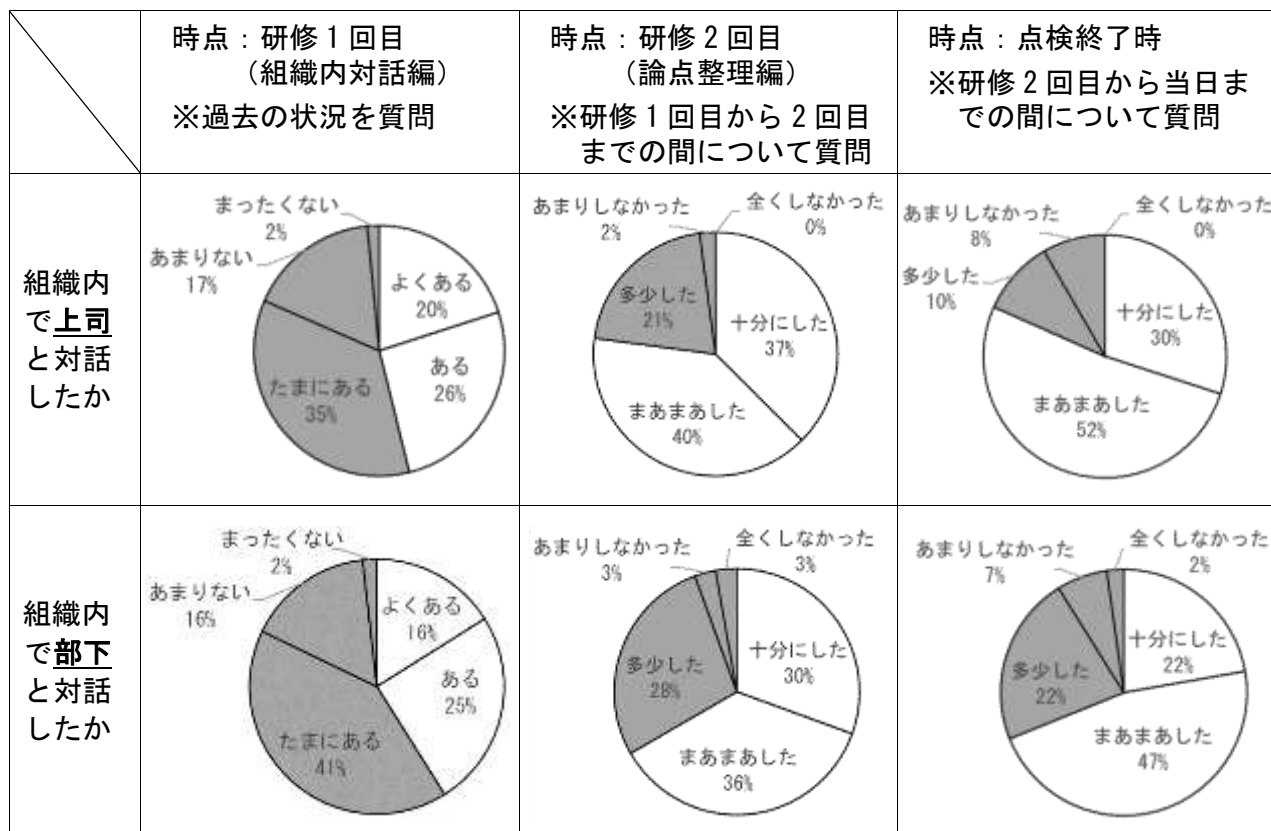
研修の成果については、「十分出せたと思う」「まあまあ出せたと思う」「出せたと思う」を合わせると9割以上（下段右グラフ）となり、前回（下段左グラフ）に比べて非常に高い結果となりました。

今回は、組織内対話を活性化させるため、事前の説明員研修において、コーディネーターとの論点整理を充実させたり、事業シートの作成期間を十分に設けたりしてきましたが、その効果が十分に伺える結果となりました。

③ 説明員に対して、組織内での対話の変化についての設問

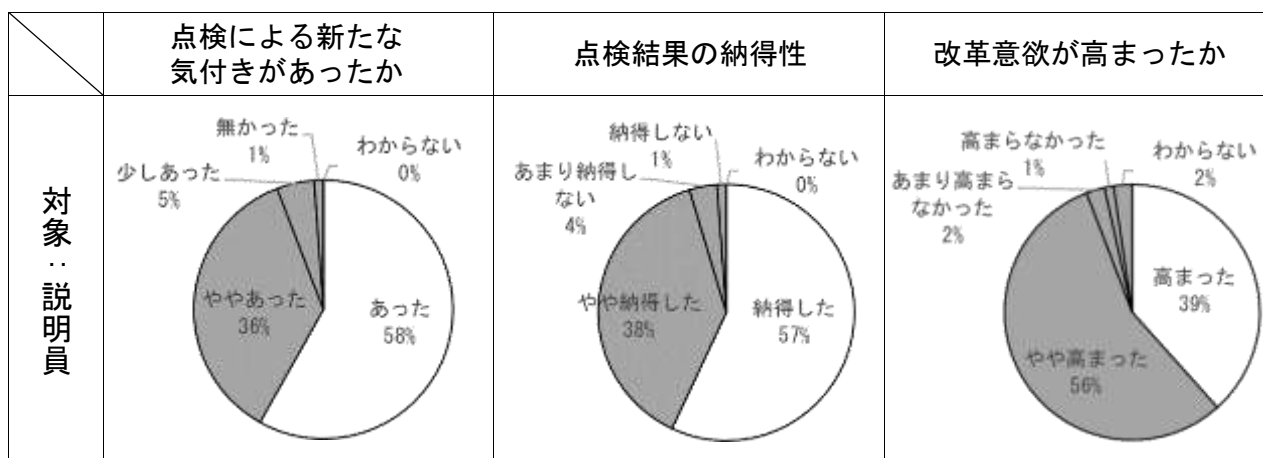
対象：補佐、係長、担当

※課長は、研修「組織内対話編」に参加していないため、対象から除外



説明員に対し、事前研修及び点検時において、組織内での対話についての設問を設置したところ、徐々に組織内での対話が活性化され、説明員の「自分ごと化」を進められたことが伺える結果となりました。

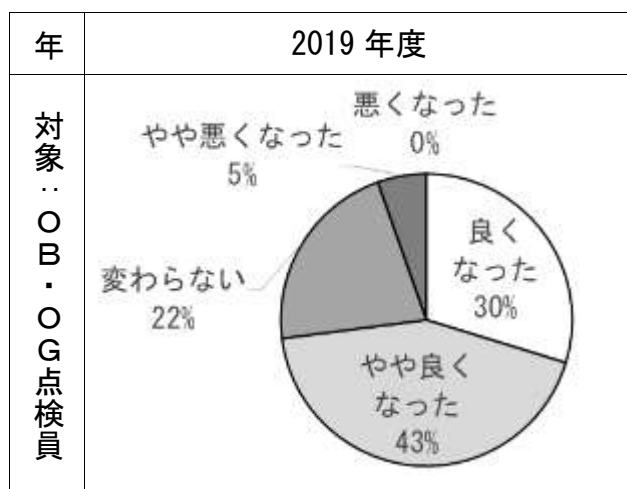
④ 説明員（職員）に対して、気づき等に関する設問 時点：点検終了時



半数以上の説明員が、「点検による新たな気づきがあった」「結果に納得した」と回答したにも関わらず（左・中グラフ）、改革意欲が「高まった」と回答した説明員は、39%に留まりました。今後は、気づきから改革意欲を高めていく取組が必要であるという結果となったため、次回の課題として検討していきます。

(4) OB・OG 点検員による過去との比較について

① 過去に参加した点検と比べて、今回はどうだったか



OB・OG 点検員に対して、過去に参加した点検と今回を比較する設問を設定したところ、「良くなった」「やや良くなった」が合わせると 73%という結果となりました。
主な意見は、以下のとおりです。

◆良くなった点

- ・ 職員の説明が前回よりもわかりやすくなった。(外 5 件)
- ・ 初回から参加しているが、資料が見やすくなり、職員の方の説明も分かりやすくなっていると思います。
- ・ その場での質問にも、ほぼ回答していただけた。
- ・ 過去 2 回と比べ、点検全体のスケジュールが最も良いと感じた。
- ・ コーディネーターの進行は変わらず良かった。
- ・ 判定シートが書きやすく進化した。
- ・ 前は、説明員が担当の事業について把握できていないような印象を持っていましたが、今回はそう感じる事はなかった。

◆改善点

- ・ 点検員の中で、決まった人ばかりが話が長い。ちょっと個の意見が強かった。
- ・ 開会式の必要性をあまり感じなかった。

(5) 自由記載欄について

ア 市民点検員の意見

市民点検員に設定した自由記載欄に寄せられた主な意見は、以下のとおりです。

(ア) 点検内容等に関する意見

- もう少しざっくりばらんに意見が言える雰囲気にしてもいいのではと思いました。丸テーブルにするなど。
- 成果、目標の設定について深掘りすることは重要。
- 数字は羅列ではなく、分析した表とした方が良い。
- 数字を出すのも難しいとは思いますが、せめてゴールは明確に掲げてあげると筋が見えるのかなと思います。
- 昭和の時代からの（続いている）しくみ、システムを抜本的に見直すテーマにしたかどうか。
- 事業シートはできるだけ判りやすく作成してほしい。市長への声という欄があると良いかも。
- 点検の時間がもう少しあると良いと思いました。

(イ) 点検員に関する意見

- 多くの方の参加を望みます。（外 4 件）
- 一部の方だけ発言が多いというのはあまり良くないと思います。（外 1 件）
- OB・OG は少なめで、新人が多いメンバー構成が良いのでは。
- もう少しグループの年代、性別をバラバラにしてほしい、色々な意見が出ると思います。

(ウ) 全般に関する意見

- 非常に充実した時間だった。有意義な 1 日だった。とても勉強になった。（外 2 件）
- 毎年、継続しての開催を希望します。（外 1 件）
- 今後も市民の声を届ける場を設定して欲しいです。
- 事務事業の多岐にわたることがよくわかりました。広く事業を知ることができて良かった。
- この制度自体の市民への宣伝が不足していると思います。
- 台風が多い時期なので、日付の検討をして欲しい。また、予備日を設けて欲しい。
- 暑かったのでクーラーをどうにかして欲しい。
- 写真を撮られるのは少し抵抗があった。

(エ) 「自分ごと化」につながる意見や提案（判定シートより抜粋）

- SNSなどを活用し、市の情報を周囲の人に発信していきたいと思います。（外 19 件）
- もっとアンテナを立てて、市の広報やウェブサイトをよく見て、市で行っている行事等を知るようにしたいと思います。（外 11 件）
- ボランティアに参加したい。（外 6 件）
- 機会があれば次回も参加したいと思います。（外 5 件）
- 自分でできることをこれから考えていきたい。（外 1 件）
- 地域活動に協力・参加していきたい。（外 1 件）
- 町会加入に対し、加入率の向上を考えていきたいと思います。横のつながりを大切にしたい。
- 市原市に魅力ある事業を市民と行政で一緒に考えていきたい。
- 町会に参加するだけでなく、町会同士が繋がったより大きな地域コミュニティにも目を向けたい。
- 町会の総会などを通じて、取組を説明していきたいと思う。
- 民生委員として、真剣に取り組み、より多くの人の声を聞いていこうと思います。
- 地域の住民と協力して、住んでいる町の安全を守ります。
- コンビニ交付で困っている人を見かけたら声を掛けてみる。
- 税金の大切さを子どもたちに伝えていきたい。

イ 説明員の意見

説明員に設定した自由記載欄に寄せられた主な意見は、以下のとおりです。

- 市民と直接事業について話し合える事は貴重であり有意義だと思います。（外 1 件）
- 質疑の時間が短いと感じた。もう少し、全体でディスカッションする時間があれば、もっと「気付き」を得ることができたと思います。（外 1 名）
- 会場の空調を整えてほしい。（外 1 件）
- 市民目線との違いが、ハッキリとした。
- 市民シートと事業シートに重複する部分があるので、説明しにくい。事業シートは役所的過ぎてわかりにくいと思われる。
- 事前資料の追加が柔軟にできるとよい。
- 一人の方（市民）の質問や意見について、別の市民がどのように感想を持つのかも聞きたかった。
- 市民点検そのものは有意義と感じているが、準備から当日対応までの人件費を思うと費用対効果には、検証がいるのではないか。
- 毎年対象になる課と一度も点検を受けていない課があるため、対象事業については、総合計画ごとではなく、課ごとに割り振られることを希望する。

ウ 傍聴者の意見

傍聴者からは、全体の進行や点検員に関する感想等に加え、次回に向けた改善のヒントとなるような意見をいただきました。主なものは、以下のとおりです。

(ア) 点検内容等に関する意見

- ・ コーディネーターの進行、雰囲気づくりがとても良かった。(外 4 件)
- ・ 市民点検員と説明者が対立せず、良い方向へ議論が進み、建設的な意見が出たのはとても良かったと思う。(外 1 件)
- ・ 毎年、パワーアップしてきていると感じます。今回は説明員と市民が、ざっくばらんにキャッチボールできていたのがとても良かったし、市民との距離もぐっと近かったです。
- ・ 市民と対話しながら、事業について見直し、考えることができる貴重な場だと思う。

(イ) 市民点検員・説明員に関する意見

- ・ 意識の高い方が参加していると感じました。
- ・ 障がい者、高校生などの若者の参加は良かった。
- ・ 参加された市民の方の年齢が様々で若い方(18~20代)の意見はとても新鮮で的を射た良い意見だと感じました。
- ・ 市民点検員の話の方向が広がっていった時に、説明員が他課の所掌事務についても理解があり、市民とともにより良い方策を考えていこうという姿勢が見えて、すばらしいと思いました。

(ウ) 全般に関する意見

- ・ 会場全体が暑い(外 2 件)。エアコンの送風音がうるさく、発言者の声がよく聞こえなかった。
- ・ 自己紹介は職員も同じように流れの中でやると、場の一体感がつくれるのではないかと感じた。
- ・ 事業費と人件費が分かれているため、総事業費としての捉え方が市民にとって分かりにくいと思った。マンパワーとしての事業もあるので総事業費として内訳を人件費とその他(物資代等)として記載してはどうか。

エ 高校生・大学生の意見

高校生及び大学生からの主な意見は、以下のとおりです。

- ・ 自分の住んでいる市の取組について知れることは、とても良いことだと思った。
- ・ 良い取組だと思うので、今後も続けて欲しいし、他の地域にも市民点検の取組が広まれば良いなと思いました。

-
- 若い高校生や大学生が政治や自分の地域の取組に興味、関心を持つとても良い機会だと思います。
 - 地域とのつながりなど、自分が貢献できる部分をもう一度考えてみたいと思いました。
 - 実際に行ってみると、意外と楽しかったので、他の地域でも実施すべきと思いました。
 - 直接行政の仕組みを聞き、対話ができるのは、とても貴重な体験でした。
 - 普段の高校生活では体験できないことをさせていただきました。

オ 市民提案員（OB・OG）の意見

今回の市民点検では、より多くの市民の皆様に点検に関わっていただけるようにするため、「市民提案員制度」を取り入れました。OB・OGの中で希望いただいた方に市民提案員となっていていただき、点検自体には直接関わりませんが、会場で対話を聞いていただき、提案シートにより御提案をいただきました。

市民提案員からは、「市民提案員制度」も含めて、OB・OGの方々に活躍いただく仕組みの見直しが必要となる様な意見を多くいただきました。

主な意見は、以下のとおりです。

- 市民提案員の立ち位置がわかりづらい。
- 市民提案員は、発言の機会がなく、挙手もないため。傍聴者と同じ。
- 点検に関わるのが少ないので残念だった。
- 市民提案員の意見の切り口や鋭さはすごかった。
- OB・OGは少なめで、主婦、学生、若者の初参加を希望します。

5 参考:事務事業の市民点検 2019 実施マニュアル(抜粋)

(1) 対象事務事業の選定

事業選定については、市原市総合計画に掲げる施策を単位に、図1に示す「市原市総合計画の施策体系図」の太枠内を点検テーマとして設定し、各テーマに紐づく事務事業を点検しました。

なお、2018年度に実施できなかったものもありましたので、昨年度の点検テーマも継続して対象としました。

1テーマにつき、2～4の事務事業を選定し、全部で32の事務事業を対象としました。選定した際の流れ、条件は、次のとおりです。

ア 選定の流れ

- ・ 各部門からの提案方式にて、対象候補となる事務事業を提案しました。
- ・ その後、市原市行政改革推進委員会に諮り、32の事務事業を選定しました。

※行政改革推進委員会では、対象となる実行計画事業の一覧と、その中から候補として選定した事務事業を選定リストとして提出しました。

イ 選定の条件

- ・ 市民点検の効果を最大限に活用するため、市民点検による成果を期待できる事業を選定しました。
- ・ 2018年度に市民点検を行った事務事業（36本）は、市民点検の効果を広くもたらすため、又、点検による改善効果等がまだ検証できないことから、今回は対象外としました。
- ・ 2019年度の新規事業については、実績を評価できないため、対象外としました。
- ・ 専門的知見により検証が必要な事業、対象者数が限定されている事業、既に計画決定している事業は、対象外としました。
- ・ より効果的に点検を行うため、関係性のある複数の事務事業はまとめて点検しました。
- ・ 実行計画事業のうち、「市原市総合計画 第一次実行計画 2019年度版」に事業名として具体的に掲載されていないものは、その事務事業の目的等に合わせ、点検しやすいよう整理しました。

(例) 文化財普及啓発事業（標準経費の普及啓発関連経費）

青色防犯パトロール事業（自主防犯組織支援事業、安全パトロール実施事業）

図1 市原市総合計画の施策体系図



(2) 事前研修

ア 対話力向上研修 第1弾「組織内対話編」

日 付：令和元年5月29日（水）

対 象：点検対象課以外も含む／補佐、係長、担当者

出席者：169名

イ 対話力向上研修 第2弾「論点整理編」

日 付：令和元年6月19日（水）及び20日（木）又は25日（火）

対 象：点検対象課のみ／課長、係長、担当者

出席者：延べ149名

ウ 市民点検員研修

日 付：令和元年7月20日（土）

対 象：市民点検員

出席者：100名（内、高校生14名は個別説明）

(3) 点検方法と判定

ア 1 事業の点検方法

事業説明	役割：説明員（市の担当課職員）	10 分		
	説明員が、市民点検用説明シート及び事業シートに基づき、事業の要点や補足を簡潔に説明しました。			
対話 質疑応答	役割：コーディネーター・各点検員	50 分		
	コーディネーター（構想日本スタッフ）が、対話が促進されるよう点検を進行しました。 点検員は、事業内容や実績等について、質疑を行い、事業の在り方、実施方法等について対話を行いました。			
判定	役割：コーディネーター・各点検員	10 分		
	対話に基づき、判定シートを用いて結論を出し、結果及び内訳を公表しました。 なお、市民と職員が対話を通じて一緒に考え、自由な雰囲気の中で新たな発想を生み出すため、判定区分は以下のとおり、やわらかい表現としています。 <table><tr><th>判定区分</th></tr><tr><td>ちょっと待った！（廃止・凍結）</td></tr><tr><td>もう一歩！（要改善）</td></tr><tr><td>いいね！（継続）</td></tr></table> 判定以外にも、各点検員の御意見は、判定シートへ記入し、その内容を担当課へ回付しました。		判定区分	ちょっと待った！（廃止・凍結）
判定区分				
ちょっと待った！（廃止・凍結）				
もう一歩！（要改善）				
いいね！（継続）				
※時間は目安であり、点検内容によって増減あり		計 70 分		

※市民点検員には、半日単位の参加で 1,000 円の図書カードを進呈（事前研修参加も含む）

イ 判定結果の論点（キーワード）

事務事業の担当課が、改革・改善を具体的に進めていくため、判定のポイントとなった論点（キーワード）をコーディネーターがとりまとめました。

また、点検員が判定に迷わないようにするため、判定基準を分かりやすくし、自由記載欄を設定しました。

事務事業の市民点検 2019 事務事業一覧

■点検結果が「もう一步! (要改善)」、反映の方向性が「即時反映」となったもの(15事業)

No	事務事業名	担当課	【点検結果】						判定のポイントとなった理由	【中間報告】	
			判定	ちょっと待った! (廃止・凍結)	もう一步! (要改善)	いいね! (継続)	コーディネーター判定	市民提案員		反映の方向性	担当職員の得られた気づき
1	ウェブサイト・SNSを活用したシティープロモーション	シティプロモーション推進課	もう一步! (要改善)	0	6	1	いいね! (継続)	—	何をどの媒体で発信すべきかを考え続け、市の魅力を最大限に発信して欲しい。何らかのインセンティブ(見たらクーポンが手に入るなど)があっても良いのではという意見があった。 また、そもそも、市役所についての興味を高める対策が必要ではないかという意見や、広報が届かない人への対応も重要であるとの意見もあった。 その他、SNSで市の魅力を発信する内容としては、美しい風景や食べ物の写真などが効果的であるとの意見が多かった。 以上の理由から、判定は「もう一步! (要改善)」となった。	即時反映	市公式SNSの存在そのものを知らないという意見が多かったため、投稿内容の充実を図るとともに、アカウントの存在を周知することがまず重要だと感じた。SNSに誘導するインセンティブになるような取り組み(クーポンの発行等)を増やし、アカウントの存在そのものを周知していきたい。また、市原の風景や食を投稿するとよいと指摘があったため、拡散されそうな美しい風景などを市政情報の合間に投稿することで、SNS特有の柔らかい投稿も意識的に行いたい。市が発信したい市政情報だけでなく、フォロワーのいいね!が増えるような“行政らしくない”投稿も効果的に行いたいと思う。
2	若者の結婚支援事業	広聴相談課	もう一步! (要改善)	1	7	0	もう一步! (要改善)	—	周知に関して、ポスターなどはもっと目立つ場所に掲示してはどうか。会場に関しては、より魅力的な場所での開催を考えたらどうか。スポーツ観戦などと一緒に開催したらどうかといった意見があった。 また、婚活セミナーは、1回きりでは効果がないのではないかという意見のほか、民間ではなく市で開催する目的と目指す成果を明確にした方が良いという意見もあった。 以上の理由から、判定は「もう一步! (要改善)」となった。	即時反映	点検を通じて、「当該事業の目的と内容の周知が不足していること」が分かった。 また、「カップル成立者へ贈っている湖畔美術館入園券等がカップルのニーズに合っているかを確認する必要性」に気づいた。 そのため、今後はより多くの人に事業の開催を知ってもらえるよう、ポスターの掲示施設等を増やしていきたい。また、カップルへ贈っている湖畔美術館入園券等の使用枚数を把握することで、ニーズに合っているかを確認していきたい。
3	青色防犯パトロール事業	危機管理課	もう一步! (要改善)	0	4	3	もう一步! (要改善)	もう一步! (要改善)	市民にとっては関連事業も含め、誰が担ってくれているのか分りにくいのは。青色防犯パトロール、徒歩のパトロール、高校生の活動などをもっと周知した方がよい。地域での取組が増えていくよう、町会や自主防犯組織へのPRが必要ではないかといった意見があった。 また、警察ではなく市がこの事業をやる理由、必要性を理解してもらう工夫をしたらどうか。防犯件数の推移などをデータで示し、根拠に基づいた説明を深めていけると良いといった意見があった。 以上の理由から、判定は「もう一步! (要改善)」となった。	即時反映	市民、警察、市がそれぞれの特性を生かしたパトロールを行うことが犯罪抑止に重要だと感じた。 また、広い市域を1台では足りないのではという意見や、もっと自主防犯組織への働きかけを強化すべきではとの声があり、参考になった。

No	事務 事業名	担当課	【点検結果】						判定のポイントとなった理由	反映の 方向性	【中間報告】 担当職員の 得られた気づき	
			判定	内訳			参考					
				ちよつと待った！ (廃止・凍結)	もう一歩！ (要改善)	いいね！ (継続)	コーディネーター判定	市民提案員				
4	生活支援体制整備事業	地域包括ケア推進課	もう一歩！ (要改善)	0	7	2	もう一歩！ (要改善)	もう一歩！ (要改善)	困りごとがあってもどこに相談したらよいか分からないので、制度の全体像を分かりやすく示すことが必要だと思う。分かりやすさが周知につながるのではないかと。制度が整っていたとしても、市民がその制度を知らなければ課題解決は難しいといった、周知に関する意見が多かった。 また、地域の中でも孤立し、支援が必要な高齢者がいるかもしれないので、地域の高齢者の情報をしっかり集めることが重要だという意見があった。 その他、民生委員をやっている方からは、共助の取組は市が思っている以上に進んでいる、情報共有して抜けているところを対応して欲しいといった意見もあった。 以上の理由から、判定は「もう一歩！（要改善）」となった。	即時 反映	本事業は昨年度、地域の高齢者を支える仕組みが整ったところであり、今回の点検員からの指摘で、あらためて制度が十分に周知されていない点を認識した。 高齢者をはじめ、高齢者を支える若い世代にも、本制度を分かりやすく周知していくことが必要であると認識した。	
			【事業目的】 日常生活上の困りごとを抱える高齢者を、多様な支え手による生活支援サービスと結び付けることで、その人の状態に応じた、その人らしい暮らしを住み慣れた地域で支えていく。									
			【事業内容】 日常生活上の困りごとを抱える高齢者の暮らしを地域で支える仕組みづくりをしている。									
5	いちばら健健フェスタ	保健センター	もう一歩！ (要改善)	0	7	2	もう一歩！ (要改善)	もう一歩！ (要改善)	市民にまだ知られていないため、学校や企業、町会掲示板などへの掲示やSNSの活用など、周知に工夫が必要だという意見が多くあった。 また、このイベントで測定した結果をどのように分析、活用するかが課題で、イベントの次につなげていくフォロー（検診などとの連携）が必要ではないかという意見があった。 その他、開催場所について、多くの人が集まる商業施設で実施したのは良かったと思うが、若い時から健康意識を高めてもらうことが大切であるため、10代20代などの健康への危機感が低い世代にも興味をもってもらえるよう、他場所への展開や、子供向けのイベントとの連携開催など、工夫をしてはどうかという意見もあった。 以上の理由から、判定は「もう一歩！（要改善）」となった。	即時 反映	商業施設で実施するメリットとして、イベントの開催を知らない方にも参加していただけるものもあり、予算内でできる周知啓発に留まっていたが、市民点検員の皆様より、来場者数を増やすため、周知に力を入れるよう、意見をいただき、周知方法について検討が必要であることを実感した。 イベント参加による健康についての気づきがあれば良いと思っていたが、次につながる事業等がないと健康行動につながらないのではとの意見をいただき、その後の行動に繋がる事業の紹介等の工夫が必要であると感じた。	
			【事業目的】 加齢とともに増加する糖尿病や高血圧症、がんなどは、食事や喫煙、運動など生活習慣が大きく影響するため、若い頃からのアプローチが必要である。仕事や子育てなどで忙しく、疾病予防の知見や健康への関心が持ちにくい若い世代(30歳、40歳代)を含む多くの市民の皆様生活習慣病予防をはじめ、幅広い健康づくりに関心を高める機会の提供を目的としている。									
			【事業内容】 参加団体と協力し、毎年10月に開催。主な内容は、測定（骨密度・血圧・体脂肪・肺年齢・歩行年齢等）、体験（1日に必要な野菜350gの計量・減塩みそ汁の試飲、糖尿病に関する検査等）、相談（健康相談・歯科相談・お薬相談・禁煙相談等）を行っている。									
6	子育て家庭支援員活動事業	子ども福祉課	もう一歩！ (要改善)	0	6	0	もう一歩！ (要改善)	—	母親が安心して相談ができ、危険なケースを察知できるような子育て支援員の人材育成が必要ではないかという意見があった。 また、支援員が訪問を行った後の行政との情報共有や、連携が非常に重要であるという意見もあった。 この他、事業成果の指標が家庭訪問件数、こどもフェスタ入場者数となっており、評価するためには指標の改善が必要ではないか。母親の意見を聞くためのアンケートを実施した方が良かったという意見もあった。 以上の理由から、判定は「もう一歩！（要改善）」となった。	即時 反映	訪問後の行政との情報共有や連携は現在も緊密に行っているが、その重要性について再確認したため、今後も継続していく。 また、訪問後の意見を聞く機会として、アンケート等について検討していく。	
			【事業目的】 乳児家庭全戸訪問事業では、すべての乳児のいる家庭を訪問し、子育て家庭の孤立化を防ぐために、その居宅において様々な不安や悩みを聞き、子育て支援に関する必要な情報提供を行うとともに、専門的な支援が必要な家庭に対しては、適切なサービス提供に結び付けることにより、地域の中で子どもを健やかに育成できる環境の整備を図る。									
			【事業内容】 「概ね生後4か月児のいる家庭」または「転入してきた1歳未満児のいる家庭」に向けて、乳児家庭全戸訪問事業で、情報提供や子育て相談などを実施している。また、「（小学校入学前の）市内の子育て家庭」に向けて、親子のふれあい事業で、こどもフェスタなども実施している。									

No	事務 事業名	担当課	【点検結果】						判定のポイントとなった理由	反映の 方向性	【中間報告】 担当職員の 得られた気づき
			判定	内訳			参考				
				ちょっと 待った！ （廃止・ 凍結）	もう一 歩！ （要改 善）	いい ね！ （継続）	コデー ネーター 判定	市民 提案員			
7	母子保健 事業（栄 養・食育 関連事 業）	子育て ネウボ ラセン ター	もう 一歩！ （要改善）	0	5	1	もう 一歩！ （要改 善）	—	本当に必要な人にこの事業が届いているのか。育児不安を抱えている人は、外出すること自体が大変であり、遠方ならなおさら参加が難しいので、インターネットを使ったアプローチや、待つのではなく出向いていく出前講座など、手法の検討や土日開催の検討も必要だという意見があった。また、周知方法の検討に関する意見や、事業成果を図るために参加者のその後の行動を調査してみてもどうかといった意見もあった。その他、アレルギーを持つ子供が増えているので、アレルギーに関する食講座があっても良いという意見もあった。 以上の理由から、判定は「もう一歩！（要改善）」となった。	即時 反映	対象者のニーズにあった内容なのか精査する必要がある。 配布物や情報の多さについての指摘は、他の事業についても同様の傾向があり、検討の必要性を改めて認識した。
			【事業目的】 妊娠期、授乳期や離乳食、幼児食に関する教室の開催や栄養相談を行うことにより、妊娠中や子育て中の「食」に対する親の不安を軽減し、安心して子育てができるようにする。								
			【事業内容】 妊婦や子育て中の保護者に対して、妊婦自身や子どもの食事に関する不安を軽減するため、管理栄養士等による食事の教室などで栄養相談や調理実習を行っている。								
8	ごみ減量 850推進 事業	クリーン推進課	もう 一歩！ （要改善）	1	5	0	もう 一歩！ （要改 善）	いい ね！ （継続）	ごみ減量のための一つの手法として、この事業は有意義だと思うが、もっと市民に魅力あるPRを考え、市民の参加意欲が出る様な工夫が必要ではないか。また、市民に具体的なイメージを持ってもらえるよう、この事業によって、ごみをどれだけ削減できたら、ごみ処理場の建て替えに係る費用がどれだけ減るのかや、町全体にどのようなメリットがあるのかなど、具体的に伝えたいという意見があった。 以上の理由から、判定は「もう一歩！（要改善）」となった。 その他、「ちょっと待った！（廃止・凍結）」と判定した点検員からは、利用価値が限定されているため、他のごみ減量方法への推進をもっと図ったかどうか。同様の制度を廃止した他市もあることから、時代に合わせた事業の検討も必要ではないかという意見があった。	即時 反映	生ごみ肥料化容器や生ごみ処理機の一層の普及促進のためには、家庭菜園などでの堆肥の活用など、市民に楽しく使用いただくような伝え方の工夫が必要であることなどについて気づくことができた。 今後、広報いちほらやHPなどで周知を図る際に、この気づきを活かしていきたい。
			【事業目的】 家庭から排出される生ごみの自家処理を促進し、ごみの減量化を目的としている。								
			【事業内容】 生ごみ肥料化容器又は生ごみ処理機を購入した者に対し補助金を交付し、ごみ処理機等を各家庭に普及促進している。								
9	合併処理 浄化槽普 及事業	クリーン推進課	もう 一歩！ （要改善）	0	4	2	いい ね！ （継続）	もう 一歩！ （要改 善）	公衆衛生や健康の観点から必要な事業であるが、課題はスピード感である。具体的な目標値があるので、具体的なロードマップを示せると良いという意見があった。また、合併浄化槽の普及率を上げるには、市民の環境意識を変えられるような取組に力を入れていくことが大切だと思う。個人ではなく、地域全体で呼びかけると効果があるのではといった意見があった。 その他、設置コストを下げる方法として、地域の数軒で1つの大きな合併浄化槽を利用するような工夫ができれば、自己負担額が軽減できるのではないかといい意見もあった。 以上の理由から、判定は「もう一歩！（要改善）」となった。	即時 反映	平成31年度から配管費補助等を追加して、補助金の増額を図っている。引き続き補助金の増額を模索するとともに、合併処理浄化槽を設置する必要性や補助事業を広く浄化槽区域の世帯に認知してもらう手段として、町会を活用するなど、様々な手法で更なる合併処理浄化槽への転換促進の周知を図る必要があると感じた。
			【事業目的】 合併処理浄化槽の普及を促進し、生活排水による公共用水域の水質汚濁防止を図る。								
			【事業内容】 合併処理浄化槽を設置する人に対して、設置費用の一部助成として補助金を交付している。								

No	事務 事業名	担当課	【点検結果】						【中間報告】		
			判定	ちよつと待った！ （廃止・凍結）	もう一歩！ （要改善）	いいね！ （継続）	コディネーター判定	市民提案員	判定のポイントとなった理由	反映の方向性	担当職員の得られた気づき
10	ふるさと名物応援事業	商工業振興課	もう一歩！ （要改善）	0	5	2	もう一歩！ （要改善）	いいね！ （継続）	マーケティングは適切か（商品、価値、ターゲット、プロモーション）。作った品を売るのが、売れるものを作るのか、考え方が異なる。資源を活用することは必要だが、売れるものを作るという支援も必要ではないかといった意見があった。 また、付加価値が高ければ、価格設定が高くても期待できるのではないか。そのために、こだわりは必要。ここでしか食べられないという限定性も重要になるのではといった意見もあった。 その他、採算性がどうなっているか把握しておくべきという意見や、商品宣伝に関しては、クチコミやSNSを活用すると良いといった意見があった。 以上の理由から、判定は「もう一歩！（要改善）」となった。	即時反映	当該事業により生み出された商品やサービスがあまり認知されていないことが分かった。このため、周知方法に課題があることを認識できた。
11	スポーツボランティア活用事業	スポーツ振興課	もう一歩！ （要改善）	0	4	3	もう一歩！ （要改善）	もう一歩！ （要改善）	事業の目的、目標値、あるべき姿を把握した上で、取組の見直しをしたら良いと思う。現在積極的に募集をしていない簡単な活動内容でもやってもらえば、「ささえている」という気持ちで醸成されるのではないかと。活躍する大会も増やしていくべきではないか。小さな市レベルの大会でも、まず経験を積んでいかないと、大きな大会に向け知見が増えていかないのであるかといった意見があった。 また、参加者の枠を広げるためには、SNS等を活用した広報などをしての方が良いといった意見や、始まったばかりの事業なので、課題と成果を見るためにも、参加者へのアンケートをもらったら良いのではないかとといった意見があった。 以上の理由から、判定は「もう一歩！（要改善）」となった。	即時反映	ボランティア登録対象者の拡大やボランティア派遣イベント回数の増加などの要望が多く聞かれ、市民のスポーツボランティアへの意欲や関心の高さを感じた。 事業を通じた市としてのビジョンを鮮明にし、ボランティア登録者数、派遣回数、参加者数などについて、明確な数値目標を定める必要性を認識した。
12	水道管漏水の対応	給水課	もう一歩！ （要改善）	0	7	0	もう一歩！ （要改善）	—	水道管の更新が追い付いていないので、もっとスピード感を持って進めて欲しい。安心安全のため、予算を増やしてでもしっかり対応すべき。主な漏水の原因が老朽化なのであれば、漏れてから対応するのではなく、計画的、効率的に管の更新ができる方法を考えた方が良いと思うといった意見があった。 また、将来的には、県水との統合を検討し、人件費等の削減を考えてはどうかという意見もあった。その他、水道管の総延長、その内の老朽化率、1年で更新できる延長など、具体的なデータを示した方が良いという意見があった。 以上の理由から、判定は「もう一歩！（要改善）」となった。	即時反映	水道は市民生活に必要な不可欠なライフラインであることから、漏水などについて、身近な問題として、たくさんの意見をいただき、水道の大切さを再認識した。 漏水の根本的な解決は、水道管の更新に負うところが大きいので、今後、漏水の調査と並行して効率的・効果的な更新を計画的に進めるとともに、県営水道との連携などについても積極的に千葉県に働きかけていきたい。

No	事務 事業名	担当課	【点検結果】						判定のポイントとなった理由	【中間報告】	
			判定	内訳			参考			反映の 方向性	担当職員の 得られた気づき
				ちょっと 待った！ (廃止・凍結)	もう一 歩！ (要改善)	いい ね！ (継続)	コディ ネーター 判定	市民 提案員			
13	上下水道 料金の滞 納処理に ついて	給水 課、下 水道管 理課	もう 一歩！ (要改善)	0	6	1	もう 一歩！ (要改善)	もう 一歩！ (要改善)	滞納者の支払い能力の分析ができていない。滞納者への対応や分析については、改善の余地があると考え。滞納者が特定されているケースが多いため、早めの対応が必要といった意見があった。また、滞納防止の資料等を分かりやすく作成配布してはどうかといった意見もあった。その他、口座振替が多くなると安定的に収入につながるため、口座振替を拡大した方が良いという意見もあった。以上の理由から、判定は「もう一歩！（要改善）」となった。	即時 反映	滞納を増やさないためにも、滞納者への早期対応、また、滞納者の支払能力や理由の分析が必要であると再認識した。口座振替を推奨することで、納付書請求による支払い忘れの抑止にも繋がるため、その利点を示す等で、口座振替率の向上を図ることが有効であると再認識した。
14	下水道の 普及促進	下水道 建設 課、下 水道管 理課	もう 一歩！ (要改善)	1	4	2	もう 一歩！ (要改善)	もう 一歩！ (要改善)	補助金の効果測定や、見直しが必要であるという意見があった。また、下水道未接続の住民の分析（補助体制はどの程度か、合併処理浄化槽はどの程度かなど）が必要との意見もあった。以上の理由から、判定は「もう一歩！（要改善）」となった。	即時 反映	公共下水道の目的は何かという原点に戻り考える必要があることや、浄化槽から公共下水道へ切り替えることの経済的メリットを示していく必要があると感じた。また、個別訪問や補助金についての効果測定をより深く行う必要を感じた。
15	教育資金 利子補給 事業	教育総 務課	もう 一歩！ (要改善)	0	7	1	もう 一歩！ (要改善)	もう 一歩！ (要改善)	制度周知が不十分であるため、周知方法の充実が必要。学校への広報を行い、高校の進路指導時に情報を提供できるようになると良いのではといった意見があった。また、対象者約14,000人に対して、交付実績が373人ということからも本当に必要な人に十分に行きわたっているか。ローンの対象が日本政策金融公庫のみで良いのか。助成率をもう少し上げられないのかなど検討が必要ではないかという意見もあった。その他、補助金の交付金額、他の支援策の必要性など、真のニーズの把握も必要になるのではという意見があった。以上の理由から、判定は「もう一歩！（要改善）」となった。	即時 反映	事業の認知度が低かったため、広く周知していくことが必要であると認識した。保護者の就学援助に対するニーズを調査、分析していく必要があると感じた。庁内関係部署と連携して、それぞれの制度を情報共有し、相互理解を図ると共にその内容を利用者への情報提供へつなげる必要があると感じた。

■点検結果が「もう一步！（要改善）」、反映の方向性が「実行計画・次年度予算」となったもの（7事業）

No	事務事業名	担当課	【点検結果】						判定のポイントとなった理由	【中間報告】	
			判定	ちよつと待った！ （廃止・凍結）	もう一步！ （要改善）	いいね！ （継続）	コーディネーター判定	市民提案員		反映の方向性	担当職員の得られた気づき
16	電子自治体の推進	情報政策課	もう一步！ （要改善）	0	5	2	もう一步！ （要改善）	—	成果目標の可視化が必要ではないか。例えば、業務時間の削減、窓口申請者の削減、市民の満足度の向上などについて、具体的な数値で示せると良いという意見があった。 また、費用対効果を検討し、仕様書の不断の見直しをしながら進めて欲しいという意見もあった。 以上の理由から、判定は「もう一步！（要改善）」となった。	実行計画・次年度予算	電子申請などのサービスは、介護など市役所を訪れることが難しい人こそニーズが高いとの意見があり、改めて、電子市役所の構築の重要性を再認識した。
17	租税教育・啓発事業、租税教室事業	納税課	もう一步！ （要改善）	0	6	1	もう一步！ （要改善）	もう一步！ （要改善）	啓発事業のティッシュ配布は、徴収率の向上にはつながらないため、廃止又は見直した方が良いという意見が多く、それに代わる何か別の事業をやった方が良いという意見もあった。 租税教室については、税金の大切さを子供たちに伝えるため継続した方が良いが、実施する学校を増やすことが課題。まずは教員に対して実施して必要性を理解してもらい、そこから実施校を増やしていくてはどうかという意見があった。 以上の理由から、判定は「もう一步！（要改善）」となった。	実行計画・次年度予算	啓発事業に対する率直な意見を聞くことができ、改善の参考になった。 租税教室については、実施校を増やすための方策について、様々な意見をいただき改善の参考になった。
18	人づくり職業能力開発等支援事業	商工業振興課	もう一步！ （要改善）	0	6	1	もう一步！ （要改善）	もう一步！ （要改善）	成果目標と成果指標を明確に設定すべき。資格取得は目的ではなく手段であることを認識する必要がある。女性の就業率を目標に加えるべきだという意見があった。 また、現状把握と、分析（年齢別のデータ、年度ごとのニーズ変化、相談内容など）の充実が必要。就職状況は、年齢、性別で異なることとなることから、ターゲットは適切かどうかといった意見もあった。 その他、簿記の資格取得支援は効果的であるといった意見や、介護の資格取得支援にもっと力を入れてもよいのではという意見もあった。 以上の理由から、判定は「もう一步！（要改善）」となった。	実行計画・次年度予算	成果指標について再検討する必要がある。 女性・若者の3人から「簿記講習は有効である」と意見があったので、引き続き講習を受けやすい日程を検討していきたい。

No	事務 事業名	担当課	【点検結果】						判定のポイントとなった理由	【中間報告】	
			判定	ちよつと待った！ (廃止・凍結)	もう一歩！ (要改善)	いいね！ (継続)	コーディネーター判定	市民提案員		反映の 方向性	担当職員の 得られた気づき
19	スポーツ合宿誘致事業	スポーツ振興課	もう一歩！ (要改善)	1	7	0	もう一歩！ (要改善)	—	目標設定が不明確ではないか。どのレベルのチームを何回呼び込み、関わる市民がどのくらいいて、経済波及効果をどのくらい想定するのかという点を明確にしていた方が良いという意見があった。 また、市原市には素晴らしいスポーツ施設があるので、市民にとっても市外のチームにとっても有効活用できるよう、対象を柔軟に周知を進め、宿泊施設等との連携も検討して欲しい。市内の高校ではなく、県内の有名校にアプローチして使用実績を作るとPRIになるのでは。といった意見もあった。 以上の理由から、判定は「もう一歩！（要改善）」となった。	実行計画・次年度予算	スポーツ合宿を誘致する目的やターゲットを明確にし、誘致するためのPR方法を見直す必要があると感じた。
20	道路特定事業（バリアフリー化の推進）	道路建設課	もう一歩！ (要改善)	0	5	2	もう一歩！ (要改善)	—	バリアフリーを担うのは行政だけではなく、企業などの社会貢献に働きかけてはどうか。障がい者などが事前にしっかり調べて外出できるような情報発信が必要だと思うので、ハード面に加えてソフト面でも工夫できると良いといった意見があった。 また、整備エリアについては、駅周辺に限らず、身近な生活上のエリアも必要ではないかという意見があった。 その他、障がい者の視点だけでなく、観光客に対しての視点も重要ではないかという意見もあった。 以上の理由から、判定は「もう一歩！（要改善）」となった。	実行計画・次年度予算	整備を行うだけではなく、整備した箇所の周知、PRが必要であると感じた。 予想以上に、段差解消の推進が求められていることを感じた。 点字ブロック等の整備に係る財源を民間から調達する仕組みづくりについて、検討の必要性を感じた。
21	緑化推進事業（生垣設置奨励補助金）	公園緑地課	もう一歩！ (要改善)	1	5	1	もう一歩！ (要改善)	—	生垣の設置だけでなく、特に高齢者に対しては、その後の維持管理にも目を向けていく必要があるのではないかという意見があった。 また、「ブロック塀等取り壊し補助」については、実績もゼロで、他の部署で類似事業もあるので、統廃合の検討をしても良いのではという意見があった。 その他、生垣にこだわらず、時代背景に合わせた緑化推進を行ったかどうかという意見もあった。 以上の理由から、判定は「もう一歩！（要改善）」となった。	実行計画・次年度予算	生垣が成長することによる植栽後の管理が大変であることや、隣接地権者とのトラブルの元になり得るため、設置を敬遠している人がいることを認識した。

No	事務 事業名	担当課	【点検結果】						【中間報告】		
			判定	内訳			参考		判定のポイントとなった理由	反映の 方向性	担当職員の 得られた気づき
				ちよつと待った！ （廃止・凍結）	もう一歩！ （要改善）	いいね！ （継続）	コーディネーター判定	市民提案員			
22	文化芸術振興助成事業	ふるさと文化課	もう一歩！ （要改善）	0	5	0	ちよつと待った！ （廃止・凍結）	—	現在はごく一部の人のみ関わっている事業の様な気がする。裾野を広げるには、周知方法や助成金の配分方法の見直しなど、応募が増える努力が必要ではないか。 また、終期を考えることも必要ではという意見があった。他にも、地域連携推進課の市民活動助成事業との住み分けがわかりにくいため、統合を考えてみてはどうかという意見があった。 以上の理由から、判定は「もう一歩！（要改善）」となった。	実行計画・次年度予算	当補助金事業についての市民認知度が低いことがわかった。 市民活動支援課の事業である「ひときらめく市民活動補助金」との類似性も散見されるため、事業内容の精査が必要である。
			【事業目的】 市内で、活発な文化芸術活動が数多く行われることで、賑わいのある豊かなまちを作る。								
			【事業内容】 文化芸術事業を行う団体のために、補助金の交付や周知等の支援をしている。								

■点検結果が「もう一歩！（要改善）」、反映の方向性が「行財政改革アクションプランⅡ」となったもの(5事業)

No	事務 事業名	担当課	【点検結果】						判定のポイントとなった理由	【中間報告】	
			判定	内訳			参考			反映の 方向性	担当職員の 得られた気づき
				ちょっと待った！ （廃止・凍結）	もう一歩！ （要改善）	いいね！ （継続）	コーディネーター判定	市民提案員			
23	ふるさと納税事業	財政課	もう一歩！ （要改善）	0	6	1	もう一歩！ （要改善）	もう一歩！ （要改善）	ふるさと納税で市原市が赤字（市原市への寄附額 1.5億円に対し、市原市から他自治体に流出した額 2.5億円）を抱えていることを知らなかった。この事実を市民に伝えれば、市原市に納めてもらえる人が増えるのではないかと。赤字に対して、もっと深刻に考える必要があるのではといった意見があった。 また、新たな返礼品の設定や、シティープロモーションを進めていくには、財政課だけでなく、ノウハウある事業者や、庁内の他のプロモーションを得意とする部署との連携も必要であるという意見があった。 その他、寄附を増やすためには、まずは市原市を知ってもらって、魅力を伝えることが大切。市原の良いところを市民に聞いてみてはどうかといった意見もあった。 以上の理由から、判定は「もう一歩！（要改善）」となった。	行財政改革アクションⅡ	市原市の魅力、市原市ならではのものを市外にアピールする必要がある、そのためには庁内各部署との連携や、事業者など市役所以外の主体との連携が重要であるとわかった。 ふるさと納税による市税減収の状況について、広く市民に知ってもらうための情報発信が必要とわかった。
			【事業目的】 寄附金収入の拡大を図る。 また、制度を通じて、市外居住者が市原市を訪れたり、市原市に親しみを持ってもらうきっかけとする。								
			【事業内容】 ふるさと納税制度により、自治体間の寄附金獲得競争が過熱する中、本市でも、市民のために行う事業の財源となる歳入を増やすため、本市への寄附を少しでも多く集めることが必要であるため、市外の居住者から寄附金を募集し、寄附者にお礼の品を贈呈している。								

No	事務 事業名	担当課	【点検結果】						【中間報告】		
			判定	内訳			参考		判定のポイントとなった理由	反映の 方向性	担当職員の 得られた気づき
				ちょっと待った！ （廃止・凍結）	もう一歩！ （要改善）	いいね！ （継続）	コーディネーター判定	市民提案員			
24	地区まつり助成事業	地域連携推進課	もう一歩！ （要改善）	1	6	1	もう一歩！ （要改善）	もう一歩！ （要改善）	「地区まつり」を知らない市民が多いことから、広報が十分ではないという意見や、助成金の使われ方についての公開情報が少なく、有効に活用されているかどうか懸念されるという意見があった。また、この補助金を出すことによって、地域コミュニティの大切さが認識され、町会加入のきっかけ作りにつながっているのか等、本来の目的を果たすための手法になっているのかを、市としてよく成果検証する必要がある。更に、市内の全てのまつりの状況を調査して、地区まつりの位置付けを整理すると良いのではないかと。助成事業を継続するのであれば、情報発信を見直すべき。地域の実情によってやり方が変わるので、一律の助成額の妥当性の検討が必要ではないか等の意見もあった。以上の理由から、判定は「もう一歩！（要改善）」となった。 その他、「ちょっと待った！（廃止・凍結）」と判定した点検員からは、町会単位の祭りではなく、地区のまつりだと参加できる市民に限られるので、不公平感がある。また、地区まつりは、町会加入率に直接影響しないのではないかと。加入率を上げるならば、町会単位（最小単位）のまつりに支援した方が良いのではないかという意見があった。	行財政改革アクションⅡ	地区における最大のまつりにもかかわらず、事業目的と内容を知らない方が意外にも多く、周知方法に工夫が必要であることを認識した。 各地区における地区まつりの位置付けに違いはなく、一律に22万を補助しているが、地区の自助努力を反映させるような考え方も必要であることを認識した。
25	未来創生ミーティング	地域連携推進課	もう一歩！ （要改善）	1	7	0	もう一歩！ （要改善）	もう一歩！ （要改善）	市長と対話する機会はなかなか無いので良い事業であるが、テーマ選定、開催回数、開催日（平日参加難しい）、対象者（町会長のみ）等のやり方を見直す必要があるという意見があった。また、本事業の結果や成果を可視化し、市民全体に周知・波及できると良いといった意見もあった。その他、未来創生というネーミングだからこそ、町会長だけでなく、若い人達や女性、働き盛りの方々の話も聞ける仕組みづくりが必要ではないか。予算額は全員参加を前提に考えるべきではないかという意見もあった。以上の理由から、判定は「もう一歩！（要改善）」となった。	行財政改革アクションⅡ	町会加入者であっても、事業目的と内容を知らない方が多いことを認識した。本事業での意見交換がどのように施策に反映されたのかをしっかりと周知する必要があると感じた。 町会以外の若い世代等との意見交換など新たな視点の必要性を感じた。
26	ユニバーサルスポーツの普及事業	スポーツ振興課	もう一歩！ （要改善）	0	6	2	もう一歩！ （要改善）	—	道具の貸出場所、教える相手などが良い。裾野を広げる手段を再考した方がよい。成果指標（目的）をユニバーサルスポーツの普及共生社会の実現とするならば、アウトカムとして出すべき指標は、変えた方がよいのではないかと。説得するための根拠として、データをとっていくべきという意見があった。その他、ポッチャに取り組める環境が整っているため、良い事業だと思うので、周知を進め、市民の認知度を上げるよう改善して欲しいといった意見もあった。以上の理由から、判定は「もう一歩！（要改善）」となった。	行財政改革アクションⅡ	裾野を広げるために、単に用具を貸し出すだけでなく、公民館などと連携して事業を進める必要があると感じた。

No	事務 事業名	担当課	【点検結果】						【中間報告】		
			判定	内訳			参考		判定のポイントとなった理由	反映の 方向性	担当職員の 得られた気づき
				ちょっと待った！ (廃止・凍結)	もう一歩！ (要改善)	いいね！ (継続)	コーディネーター判定	市民提案員			
27	街路樹管理事業 (交差点伐採)	道路維持課	もう一歩！ (要改善)	0	5	2	いいね！ (継続)	—	街路樹が大きくなってからの対応も必要だが、現時点で支障のない街路樹について、先を見た対応も重要ではないか。植樹の段階から将来を見据えた管理が必要ではないかという意見があった。(減らす、見直すではなく、これは必要でないという選択もある。)また、目的は交通の安全確保であるため、街路樹だけではなく雑草などの対応も重要であるといった意見もあった。 以上の理由から、判定は「もう一歩！（要改善）」となった。	行財政改革アクションⅡ	事業を進めるにあたって、周知が不足しており、町会等へのPRが不足していると感じた。大きくなっていない高木を後回しにせずに、小さなうちから伐採を進めていくことも必要であると感じた。街路樹の剪定にも、力を入れていくべきであると改めて感じた。
			【事業目的】 道路利用者のために、交差点付近にある街路樹を伐採し、信号機、標識、歩行者や車両の視認性の向上を図ることで、安全な通行を確保し、交通事故の減少に寄与する。								
			【事業内容】 交差点付近にある街路樹が大きくなり、道路を利用する歩行者や車両などから安全確認の障害や信号機、標識などが見にくくなっているため、交差点付近の街路樹を伐採している。								

■点検結果が「いいね！(継続)」となったもの(5事業)

No	事務 事業名	担当課	【点検結果】						【中間報告】		
			判定	内訳			参考		判定のポイントとなった理由	反映の 方向性	担当職員の 得られた気づき
				ちよつ と待っ た！ （廃止・ 凍結）	もう一 歩！ （要改 善）	いい ね！ （継続）	コデー ネーター 判定	市民 提案員			
28	まちづくり促進事業	都市計画課	いいね！（継続）	0	3	4	いいね！（継続）	—	地域に住む人だからこそ気がつくことがあると思うので、地域の活性化のために良いと思った。このまま続けて欲しい。住みやすい町にするために、自分も何ができるか考えるところから始めたいなどといった意見があり、判定は「いいね！（継続）」となった。 一方で「もう一歩！（要改善）」と判定した点検員からは、市全体にアプローチする必要はないと思うが、市民にもっと事業の認知度を上げる工夫をした方がよいなどという周知に関する意見が多くあった。	—	支援内容には概ね理解を得られた。ただし、事業目的と内容に対する市民の認知度が低い（ほぼ無い）ということを確認した。
			【事業目的】 地域の課題を良く知る住民が、快適で暮らしやすい生活環境を生み出すため、土地利用のルールや必要とするインフラについて検討し、地域の目指すまちの姿を実現する方法などを「まちづくり構想等」として明らかにしていただく。								
			【事業内容】 地域の課題解決に取り組む団体が、土地の使い方、インフラなどの整備に関する目標や方針、基準、進め方などを「まちづくり構想」として明らかにする活動を支援する。								
29	小中学校トイレ洋式化事業	教育施設課	いいね！（継続）	0	2	6	もう一歩！（要改善）	いいね！（継続）	子供たちが我慢しないでトイレに行けるよう、洋式化することに賛成。このまま計画的に進めて欲しい。現場の教員の声を聞き、子供たちのアンケートを定期的に実施するなどして、これからの改修に繋げて欲しいといった意見から、判定は「いいね！（継続）」となった。 一方で「もう一歩！（要改善）」と判定した点検員からは、今後、改善や検討すべき点として、財源確保の工夫、バリアフリーやLGBTなどへの配慮も必要ではないかといった意見があった。 また、物的整備だけでなく、人的整備（使い方の教育、清掃方法）でも改善の余地がないか検討の必要があるのではといった意見もあった。 その他、子供たちへの教育として、和式トイレの使い方も覚えてもらいたいため、和式トイレを残すことも必要だと思うという意見もあった。	—	スピード感をもって少しでも早く洋式化を進める必要があると認識した。 洋式化率の向上だけではなく、老朽化対策も必要であると認識した。
			【事業目的】 子供たちが使い慣れた洋式トイレを使用できるようにすることで、トイレを我慢せず健康で安心して学校生活を送れるようにする。また、教職員のほか学校を訪れた保護者や地域住民の方々が学校トイレを使用しやすくする。								
			【事業内容】 小中学校の児童生徒や教職員、また、学校を訪れた保護者や地域の方々がトイレを利用しやすくするため、和式トイレを洋式トイレへ改修する。								

No	事務 事業名	担当課	【点検結果】						【中間報告】		
			判定	ちよつと待った！ （廃止・凍結）	もう一歩！ （要改善）	いいね！ （継続）	参考 コーディネーター判定	市民提案員	判定のポイントとなった理由	反映の方向性	担当職員の得られた気づき
30	読書教育推進事業	指導課	いいね！（継続）	0	3	4	もう一歩！（要改善）	—	児童生徒の学力を向上させるためにも事業を進めて欲しい。読書の楽しさを伝えられるよう、他の良い事例を参考にするなどして推進して欲しいなどという意見から、判定は「いいね！（継続）」となった。 一方で「もう一歩！（要改善）」と判定した点検員からは、読書は堅いイメージなので、もっと子ども目線で進めたら良いといった意見や、有資格者である学校司書にこだわらず、無人の時間にボランティア等に入ってもらうのも良いのではという意見があった。 また、目標達成を確認するための調査（アンケート、声を聞くなど）を実施したらどうか。中央図書館との連携について、知らない生徒が多いのもっと広めた方が良いといった意見もあった。	—	心を育て、学力の向上にもつながる読書教育について、市民の方々も必要性を強く感じていることが分かった。人のいる図書室、という環境が整えられていくことを望む声が多いことを感じた。
			【事業目的】 学校図書館を有効に活用し、読書教育活動をさらに充実させ、児童生徒の豊かな感性と創造性を育成することを目的とする。								
			【事業内容】 児童生徒の豊かな感性と創造性の育成に向け、学校司書を全校に配置し、学校図書館の有効活用や、読書教育活動のさらなる充実に取り組んでいる。								
31	特別支援教育推進事業	教育センター	いいね！（継続）	0	2	5	もう一歩！（要改善）	いいね！（継続）	もっと支援を進めて行って欲しいという意見や、相談件数が増えてきているので、今後の状況を見ながら、人件費の増額も必要になってくるのではないかといい意見から、判定は「いいね！（継続）」となった。 一方で「もう一歩！（要改善）」と判定した点検員からは、他の機関（他部や県）との連携等について、具体的に方法を決めて、しっかりと取り組んで欲しいという意見があった。 また、アンケートで相談員訪問が有効だったという割合が増えているが、実際にどのような成果があったのか事例等を示せるとより良いと思うといった意見もあった。	—	特別支援教育事業について市民の方々にわかりやすく伝えていくことが大切であると感じた。 特別な支援を必要とする幼児児童生徒への支援を進めていく上で、他の機関との連携が重要であることを再認識した。
			【事業目的】 特別な支援を必要とする幼児・児童・生徒の就学や進学等に関する情報の提供や各学校への見学や体験学習に同行するなどの活動を通して、本人及び保護者が安心して入学を迎えることができ、子供たちが充実した学校生活を送ることができるようにする。								
			【事業内容】 特別な支援を必要とする全ての幼児・児童・生徒と保護者のために、就学や進学等に向けた電話や面談等による相談支援活動を行っている。								
32	文化財普及啓発事業	ふるさと文化課	いいね！（継続）	0	2	3	もう一歩！（要改善）	—	市原にこんなに素晴らしい文化財があると分かってもらえば、市原に愛着をもってくれる人は増えるのではないかと。子供たちも誇りを持つようになるのではという意見から、継続すべき事業として、判定は「いいね！（継続）」となった。 一方で「もう一歩！（要改善）」と判定した点検員からは、文化財の魅力をもっと市民に伝えるための周知方法の工夫や、核となる人材づくりから自主的な広がりを目指すなどの取組も必要だという意見があった。 また、歴史セミナーについては、既に人気で満席状態であるため、県外に行くのはやめて、市内の文化財にクローズアップして回数を増やしたらどうか。若い人にも参加してもらえよう、発信の方法を工夫すると良いのではという意見があった。 その他、博物館建設に関しては、市民に興味を持ってもらえるよう、建設過程の映像を公開するなど、市民が関われる仕掛けがあると良いのではないかといい意見もあった。	—	歴史セミナーの開催や文化財のポスター掲示による宣伝、インターネット博物館による情報発信など、様々な手法で文化財の周知を図っているが、事業目的と内容を知らない市民も多いことがわかった。
			【事業目的】 広報コラム、文化財ポスター、郷土学習講座は、市内の文化財の紹介を通して、関心や理解を深め、郷土への愛着を促す。また、歴史セミナーについては、県外の文化財を現地で見学し、市内の文化財との特色を比較しながら、理解を深めてもらうことが目的。								
			【事業内容】 全市民を対象に、実際に現地で文化財を見学する歴史セミナー、座学での講義と現地で文化財を見学する郷土学習講座、小学生を対象としたものづくり体験のこども講座、広報いちばらへのコラム掲載、五井駅への文化財ポスター掲示、市民大学専門講座の歴史文化リエゾンコースの運営により、市原市内の歴史や文化財の紹介と学習機会の提供を行っている。								